

慶應義塾大学 総合政策学部・環境情報学部 (SFC)
2016 年度一般入学試験「情報」の各問題について～入学者アンケート

2016 年 11 月

キミのミライ発見

氏名	村上翔啓	出身高校名	南山高校男子部
受験学部	総合政策学部、環境情報学部	入学学部	総合政策学部

1. 総合政策学部の入試について

(1) 総合政策学部の入試問題の大問 4 つごとに

① 総合政策-I

基本的な情報の知識を問う問題ですがややこしい問題も散見され、全問正解できる人はそうそういないと思うので、いかにとりこぼさないかがポイントだと思います。全体的に比較的易しかったので、消去法で丁寧に解いていきました。理解できなかった部分は後に回して、頭をリセットしてから再び理解しました。

既出の問題内容が多かったので、情報の教科書を何回も読み他大学の過去問を解いて対策するだけで高得点を狙える問題内容です。こういった知識問題をコンスタントに全問正解するのは難しいので、完璧を追い求めすぎて時間をとられないように気を付けながら、本やネットで幅広く情報の知識を取り入れていくことが重要だと思います。

② 総合政策-II

(ア) はとりこぼしてはいけない問題で、(イ) はひらめきが問われる問題だと思います。(ウ) は出題ミスということで処理されたので割愛しますが、問題は (イ) でどれだけ点数をとれるかがポイントといえると思います。

(イ) の問題はカードにどのような規則性があるかを発見できるかが難しく、僕は問題文の例として書かれている 1 から 15 までのカードを参考にして、1 から 63 までのカードを、試行錯誤しながら力技で全て書き出して自分なりに理解をしました。手を動かしているうちにひらめきが生まれるかもしれません。(イ) が問題の解法パターンを覚えて知識で解けるような問題ではなく、発想が問われたところが難しかったです。しかし、1 から 15 までのカードの例を記載するなどの丁寧な誘導があったので、そこは易しかったのではと思います。

数学的な思考力が求められる問題だったのではと思います。情報入試の対策として、最低限の数学力は身につけておいて絶対に損はないです (特に確率)。

③ 総合政策-III

データベースの問題で、一度思考がこんがらがってしまうとやっかいな問題だったと思

います。順番に丁寧に考えていくことがポイントと言えらると思います。正直僕は試験中頭がこんがらがってしまったので、問題が理解できなかったのですが、理解できないなりに少しでも正解率の高そうな解答を消去法で選んで貪欲に点を取りにいきました。データベースに慣れていなかったのが個人的には難しかったです。

基本情報技術者試験などのデータベースの問題に慣れておけば、本番でも役に立つのではと思います。

④総合政策-IV

アルゴリズムを組み立てられる発想力があるかがポイントと言えらると思います。(ア)は解いたことのあるパターンだったので困りませんでした、(イ)が難しく理解できませんでした。難しい部分は正解率の高そうな解答を消去法で選んで点を稼ぎに行きました。簡単な部分は絶対にとりこぼさないようケアレスミスに気を付けました。

こういった「問題としてのプログラミング」ではなく、実際に自分の手でキーボードを打ちこんで組み立てる「実践としてのプログラミング」を勉強して感覚を養うこともよい対策になるのではと思います。

(2)総合政策学部の入試問題の全体を振り返って

①難しかった部分は

ⅢとⅣが難しく、非常に困りました。

②易しかった部分は

難しいと感じたⅢとⅣも半分ほどは得点できていたので、最後まで粘る姿勢が重要だと思います。ⅠとⅡはきちんと対策をして臨んだ人には全体的にかなり易しかったといえると思います。

③どのくらいで合格できそうか

150点以上か以下なのかが、合否のひとつの大きな分かれ目だと思います。

④全体としての試験勉強対策として

試験勉強で一番役に立ったのは情報の教科書準拠の問題集と、「キミのミライ発見」サイトに載っている各大学(センター試験含む)の過去問、そして情報入試研究会の過去問だと思います。教科書準拠の問題集は、念には念をと複数の出版社のものをネットで取り揃えていました。他にも、個人的に情報が載っている数学社の赤本など、あらゆる問題をかき集めました。実際類似した問題が多く非常に役に立ちました。

ITパスポート、基本情報技術者試験、情報処理検定試験など一般向けの情報系の試験も手当たり次第に解いてみましたが、どれも情報入試のテイストとは少し異なっているよう

に感じました。やはり情報入試は情報という教科の問題でなければ対策効果は薄いように感じます。

現在、情報入試を実施している大学はあまりにも少なく、すべての過去問も1か月もあれば余裕でこなせてしまいます。ですから、これらの問題は1問残らず完璧にしました。間違えた問題は印刷してノートにスクラッピングして、いつでもどこでも確認できるようにしていました。

ITパスポートや基本情報技術者試験などの一般向けの問題は「対策効果は薄い」と前述しましたが、それでもやった方が他の受験者よりリードできることは確かなので、情報入試の過去問を完璧にしてやるのがなくなったら確認レベルでいいのでやるべきです。

他にも情報入試研究会の人が著者として多くかかわっている『キーワードで学ぶ最新情報トピックス』という本を読んだり、書店で気になった本を読んだりといろいろ対策はやってきましたが、やはり情報入試用の参考書が一切ない状況はつらかったです。

僕の年度の情報入試合格者は、僕を含めて皆、「片手間で数か月しか対策していない」という人ばかりでした。そんなSFC受験方式の「穴場」としての情報の参考書ができてよいのではと個人的には思います。しかし、現状としてはそのような参考書は存在しないので、僕の年度の情報入試は「情報入試対策になる問題の収集能力」「そもそも情報入試という存在の認知」といった条件が可否を分けたと思います。この可否を分ける条件は恐らく今年もまだ引き継がれているはずですが、この条件さえクリアできれば、「英語選択」「数学選択」「英・数選択」の人たちよりも断然少ない時間でSFCに合格することが可能だと思います。

2. 環境情報学部の入試について

(1) 環境情報学部の入試問題の大問4つごとに

①環境情報-I

総合政策学部と同様（→総合政策学部を参照）

②環境情報-II

どれもよくある問題だったので、どれほど対策してきたかがポイントだったと思います。計算間違いなどのケアレスミスを避けるためにかなり丁寧に解きました。やはり、いろいろな過去問を解くことが重要です。

③環境情報-III

上記IIと同様、どれもよくある問題だったので、どれほど対策してきたかがポイントだったと思います。知識がなければ解けない問題ばかりなので、難しい問題は消去法で少し

でも確率の高い選択肢を選ぶことが重要だと思います。こういう問題はいくら考えてもわからないものはわからないので、難しい部分で無駄に時間を消費してしまわないよう手早く解きました。いろいろな過去問を解き、本やネットで基本的な知識を取り入れることが重要です。

④環境情報-IV

前日に受けた総合政策学部の問題IVよりも圧倒的に簡単だったので、安心した覚えがあります。情報受験仲間で満点の人も多かったので、ここで点数を稼いでおくことがポイントだと思います。理解に苦しんだ時は具体的な数値を当てはめて考えると理解がしやすいです。情報入試特有の「日本語で書かれた処理を並べる」というアルゴリズム問題独特の形式に対策して慣れていけばスラスラ解きやすいと思います。

(2) 環境情報学部の入試問題の全体を振り返って

①難しかった部分

IやIIIで満点をとることは難しいので、それらに時間をとられてはいけません。また、IIやIVもケアレスミスがないように丁寧に解いていく必要があると思います。

②易しかった部分

環境情報学部は総合政策学部よりも情報系のイメージが強いので、勝手に「難易度は上がる」と思っていたのですが、全体的に典型的な問題が多く、対策してきた人にとっては点数の出やすい問題だったと僕は思います（総合政策学部の方が平均点は高いようですが）。

③どのくらいで合格できそうか

総合政策学部と同様、150点が合否のひとつの大きな分かれ目だと思います。

④全体としての試験勉強対策として

総合政策学部と同様（→総合政策学部を参照）